

クラス番号	910	ゼミタイプ	地域研究型
		担当教員名	斉 藤 雅 茂
テーマ	認知症の人と家族に関する地域社会への啓蒙・啓発		

ゼミナール概要

目的、内容、方法等：

<学習目標>

- ・認知症への理解を深めるとともに、認知症の人と家族がどのような課題を抱えているのかを説明できる。
- ・様々な主体と連携しながら、自らの力で認知症の啓発にむけた企画を提案・実施できる。
- ・自らが取り組んできた研究・活動成果を地域社会に発信することができる。

<内容の要約>

認知症に関わる対策は、世界保健機関（WHO）でも議論されている地球規模の課題であり、高齢化率が最も高い日本社会での取り組みや経験は国際的に注目されています。なかでも、認知症の予防とともに、「認知症にやさしい地域（Dementia Friendly Community）」をどう実現していくのかは保健・医療・福祉実践の重要な課題です。この演習では、認知症の人と家族に関する啓蒙・啓発を大きなテーマにして、地域研究型として、学生の皆さんが自ら企画したプロジェクトを実施・運営していきます。座学を通じた知識のインプットよりも、社会に還元できるような知識や成果のアウトプットを重視しています。たとえば、これまでは認知症啓発にむけたクイズ・アプリやシミュレーションゲーム、紙芝居やカルタなどを開発し、様々なイベントで発信してきました（ぜひ先輩たちの活動成果をご参照下さい。様々なメディアでも紹介されています）。前期の半分を使って認知症に関する基礎的な学習と関係機関への視察・ヒアリングをし

つつ、学生ならではの柔軟で意義のある企画を構想して、後期にかけて企画の具体化や成果の発信を図ります。

先輩達の活動成果
はコチラから→



授業計画（予定）：

（前期）

1. オリエンテーション；課題共有と役割分担
- 2～4. 認知症に関わる諸問題や取り組みを調べる
- 5～7. 取り組むべき課題を構想する
- 8～10. 実現可能な課題を整理する
11. 中間報告会
- 11～13. 各班で設定した課題に取り組む
14. 中間報告会
15. 前期の振り返り

（後期）

- 1～5. 成果物のとりまとめと成果発信①
6. 中間報告会
- 7～10. 成果物のとりまとめと成果発信②
11. 中間報告会
- 12～13. 各取り組みの達成度と反省
14. ルーブリック評価法を用いた自己評価
15. 一年間の振り返り

担当教員からのメッセージ



本ゼミでは、いわゆる座学だけでなく、様々な施設・事業所、企業やNPOと協働した実践に取り組みます。与えられた課題ではなく、自らが企画・実施・評価していく点に特色があります。通常の講義とは異なり、正規の時間外での打ち合わせや地域活動への参加機会があります。皆さんへの負担は小さくありませんが、その分、得られるものも大きいと信じています。自分たちのアイデアや提案が実社会で活用されるまたとない機会でもありますので、積極的に参加・議論できる方をお待ちしています！